

【第8分科会・話題提供 肢体不自由】

「单元内のよくばりな仕掛け」
～新学習指導要領で整理，選択しながら～

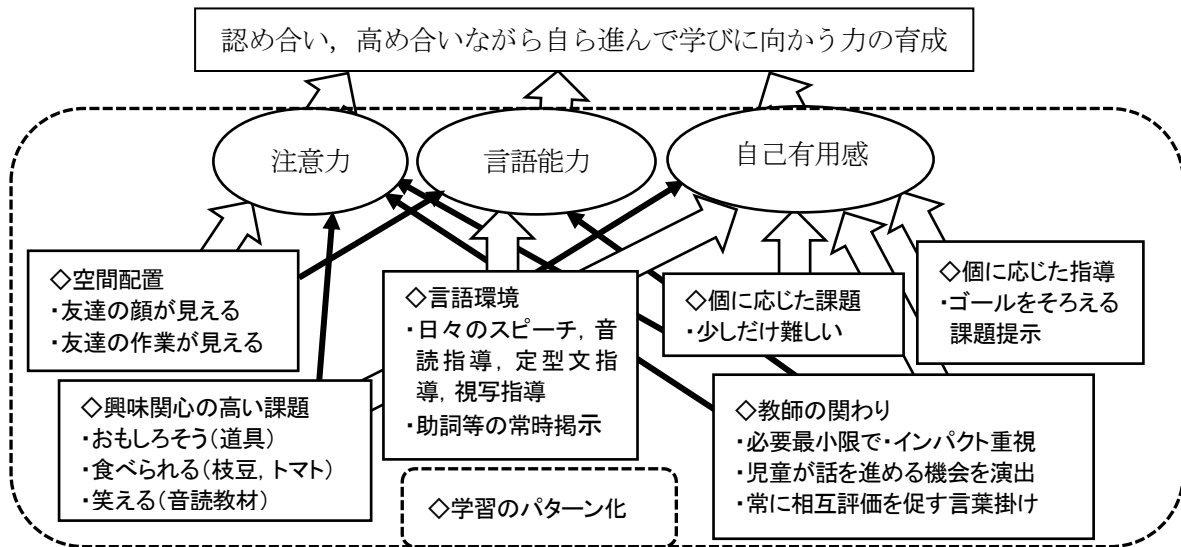
宮城県立船岡支援学校
教諭 丹野 道彦

1 はじめに

- ・船岡支援とは…全県一区の肢体不自由特別支援学校で，小学部，中学部，高等部に寄宿舎併設。
- ・児童（小学部6年男子3名）の主な障害は，移動運動機能障害，両上下肢不自由，知的障害。

2 取組の概要

- (1) よくばりな仕掛け（生活単元学習 学級菜園「ファミリーファーム」H30，4～12）
学習指導要領の段階に照らし合わせて，指導目標（別紙）を設定し，生活，国語，算数，図工，自立活動と多くの学習内容を取り入れた。
- (2) 指導（授業作り）の観点
 - ① 他者の言動や行動を気に掛ける注意力
 - ② 感じたこと，伝えたいことを表出できる言語能力
 - ③ 他者と関わろう，新しいことに挑戦しようとする原動力となる自己有用感
- (3) 指導の手立て
 - ① 他者を意識するような空間配置の工夫
 - ② 定型文で話したり書いたりするような言語環境整備
 - ③ 個に応じた指導や学習課題の提示と，教師の関わり方の工夫
- (4) 手立てと仕掛けの構想図



3 まとめ

教師との関わりを好み，言語を使った児童間のやり取りがほとんど見られない段階であったが，友達を褒めたり質問したり感想を話したりと，コミュニケーション能力の高まりがみられた。また，様々な道具を使った学習に意欲的に取り組んだことで，書字を含めた手指の巧緻性が高まり，紐を結んだり思い通りにハサミで紙を切り取ったりすることもできるようになった。児童同士で話したくなる仕掛けや会話や質問が気楽にできる言語スキルの指導，興味関心が高い課題の提示が効果的であったと思われる。また，適切な量と質の教師の関わりも重要で，特に量には留意し最小限でインパクトがある言葉掛けを心掛けたことで，児童が互いに認め合い高め合える学習環境にできたと考えられる。

◇使用した道具
ハサミ，ペンチ，結束バンド，シリンジ，ノコギリ，ドライバー サンドペーパー，コンパウンド，ロープ，ピンセット，リール，筆，ワイヤーリボン，絵の具 他